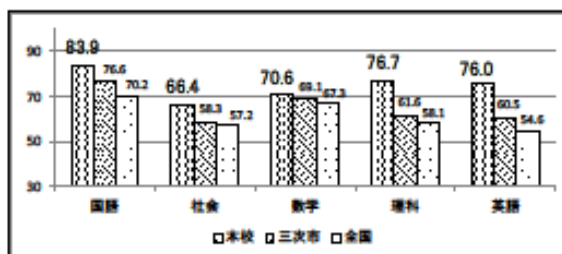


平成30年度 三次市学力到達度検査 結果概要

平成31年1月10日(木)と11日(金)に、中学第1学年と第2学年を対象に実施された「三次市学力到達度検査」の結果が公表されました。学力調査の結果とこれからの取組について説明します。

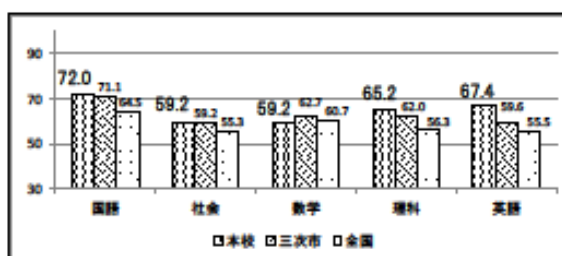
1年生結果概要

	国語	社会	数学	理科	英語
本校	83.9	66.4	70.6	76.7	76.0
三次市	76.6	58.3	69.1	61.6	60.5
全国	70.2	57.2	67.3	58.1	54.6
三次市との差	7.3	8.1	1.5	15.1	15.5
全国との差	13.7	9.2	3.3	18.6	21.4



2年生結果概要

	国語	社会	数学	理科	英語
本校	72.0	59.2	59.2	65.2	67.4
三次市	71.1	59.2	62.7	62.0	59.6
全国	64.5	55.3	60.7	56.3	55.5
三次市との差	0.9	0.0	-3.5	3.2	7.8
全国との差	7.5	3.9	-1.5	8.9	11.9



1・2年生ともに、おおむね定着が見られ、2年生数学以外で全国平均を上回ることができました。特に、理科と英語科で基礎・活用ともに力がついており、成果が見られました。

今後は、各教科において領域ごとに分析をし、右にあります改善計画をもとに、定着を図っていきたくと考えています。

また、家庭学習時間を増やすとともにメディア時間を減らすことに努めていきたいと思えます。生活に関する意識調査では、平日の家庭学習時間2時間以上が、1年20.0%(全国-5.7p)、2年0.0%(全国-27.1p)と大きな課題であると思えます。ノーメディアデーの実施と家庭学習時間におけるデータの自己管理及び保護者連携を行い、全員が毎日2時間以上できるように取り組んでいきたいと思えますので、家庭でも、家庭学習の習慣化にご協力をお願いします。

【各教科の分析及び改善計画について】

教科	調査結果 [○成果 ●課題]	今後の取組について
国語	○「書くこと」の領域の正答率が100%に近い生徒が多く、ほぼ定着していると考えられる。 ●漢字の読み書きが他の領域に比べて正答率が低く、確実に定着していないことが課題である。	①漢字の知識の定着と、国語辞典などの辞書類を使う習慣を身に付けさせるために家庭学習や予習の改善をする。 ②漢字や語句、意味を問うドリルや小テストなどを授業で定期的に取り組むように指導を改善や工夫をする。
社会	○1年生は全国平均を+9.2p、2年生は3.9p上回り、一定の成果が見られた。 ●1・2年生ともに活用に関する問題に課題が見られた。	①学習内容と時事問題などを関連させ、ニュースなどに関心を持たせ、学習意欲の向上を図る。 ②小テストやドリル学習、レポート作成を実施し、学力の定着をはかる。
数学	○1・2年生ともに関数の領域で全国平均を上回っている。特に、1年生が約10p上回った。 ●数と式の領域に課題があり、基礎的な計算だけでなく、説明する問題などに課題が見られた。 ●2年生は中央値が全国平均よりも8.6p低く、基礎・基本の定着をめざす必要がある。	①「教えて考えさせる授業」を定着させ、特に理解深化課題に力を入れ、実生活と関連した内容を取り入れていく。 ②定期的に復習プリントを行うとともに、ドリル学習を通して基礎・基本の定着を図る。
理科	○おおむね、基礎的・基本的な知識・理解の定着が見られ、自然現象についての知識・理解の観点では、1・2学年ともに全国平均を8p以上上回った。 ●実験を行い、その結果を考えて解釈する問題に課題が見られた。単に知識を身に付けさせるのではなく、なぜそのようになるのかを考えさせながら理解させる指導が必要である。	○多くの実験や観察を行い、実験や観察をもとに知識を身に付けさせる。 ○生徒に課題を発見させ、その課題を解決するための実験・観察方法を考えさせたり、方法の留意点を考えさせたりする活動をさせる。 ○実験や観察を比較し、その共通点や相違点を考察させることを通して、実験・観察技能を身に付けさせる。
英語	○1年生に関しては、基礎・活用とも全国をかなり上回っている。 ○2年生に関しては、基礎・活用とも全国をかなり上回っている。	○毎時間、必ず英語を話し続ける時間を設け、自己表現を定着させる。 ○話した英語を宿題や課題の中で書かせる。 ○2年生の理解の能力が低いのは、語彙に問題があるので、単語テストのフィードバックや繰り返しのドリルをさせる。

※詳細については、本校ホームページに掲載します。